

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第4部門第1区分

【発行日】令和5年8月21日(2023.8.21)

【公開番号】特開2023-24264(P2023-24264A)

【公開日】令和5年2月16日(2023.2.16)

【年通号数】公開公報(特許)2023-031

【出願番号】特願2022-62886(P2022-62886)

【国際特許分類】

E 04 B 1/70(2006.01)

10

E 04 B 1/76(2006.01)

F 24 S 10/40(2018.01)

【F I】

E 04 B 1/70 B

E 04 B 1/76 100 A

E 04 B 1/76 200 A

E 04 B 1/76 200 E

E 04 B 1/76 300

F 24 S 10/40

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年8月10日(2023.8.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

第一，第二太陽熱温水装置104，105は、太陽熱により水を加熱する集熱部111と、加熱する水を貯留する貯留部112とを備える。本実施例の第一，第二太陽熱温水装置104，105は、熱媒が太陽熱により加熱されることで、前記貯留部112の水が加熱される。こうした構成によれば、比較的高い水温の水を効率的に得ることができる。

30

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

加えて、本実施例では、第一太陽熱温水装置104と第二太陽熱温水装置105とを切り替えて流水管2に温水を循環させる。ここで、第一太陽熱温水装置104は、屋根上に配設されていることから、敷地内の庭に配設された第二太陽熱温水装置105に比して、太陽熱を集熱し易く水の加熱効率が良い。そのため、外気温が上昇し難い朝から昼にかけての時間(8時～13時)で、第一太陽熱温水装置104から流水管2に温水を循環させる。そして、外気温が上昇し易くなる昼から夕方にかけての時間(13時～18時)で、第二太陽熱温水装置105から流水管2に温水を循環させる。この第二太陽熱温水装置105では、朝から昼にかけての時間(8時～13時)で温めた温水を、昼から夕方の時間(13時～18時)で、集熱部111により温めながら流水管2に循環させるため、第一太陽熱温水装置104に比して太陽熱の集熱効率が低くとも、床下空域11の空気を十分に温めることができる。また、第一太陽熱温水装置104では、貯留部112の水が昼以降で温められることから、夜間ににおける水温低下を抑制できる。そのため、朝から昼にか

40

50

けての時間で、集熱部 1_1_1により温めながら流水管 2 に循環させることによって、床下空域 1_1 の空気を十分に温めることができる。このように第一太陽熱温水装置 1_0_4 と第二太陽熱温水装置 1_0_5 とを切り替えることにより、床下空域 1_1 の空気を効率良く温めることができる。

10

20

30

40

50